

NETIS登録番号:TH-020011-V
(設計比較対象技術)

マルチ搬送(横引)工法



高架下の横断、仮設道路の確保ができない場所、狭隘な住宅の密集地など、クレーン等重機械によるコンクリート二次製品の搬送が困難な場所に据付ける場合には、マルチ搬送(横引)工法&マルチレベル工法併用による据付工を実施することにより、安全・確実・迅速かつ高精度な施工ができ、それに伴い工期の短縮・大幅なコスト削減ができます。

マルチ搬送(横引)工法の特長

1 シンプル&経済的

シンプルな搬送機、基礎コンクリートの打設時に走行ガイドを埋め込むだけなので、経済性に優れています。

2 広い適応性

搬送機の幅、長さ、耐荷重を変えることが可能で、あらゆる形状・荷重の二次製品の搬送にも適応可能です。

3 曲線も可能

走行ガイドに沿って走行することにより、曲線部の走行も可能です。(最小半径R9m程度)

4 素早く高精度

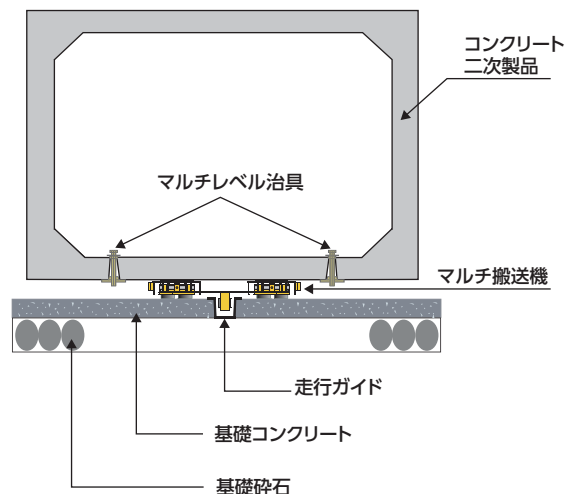
マルチレベル工法と併用することにより、搬送先で据付する際も人力で素早く高精度な据付が可能です。

概要

平面図



断面図



プロダクト
サマリー

インフォ
メーション

水路

道路

ます

景観

電線類
地中化製品

擁壁

補強土工

耐震性
貯水槽

遊水池
ブロック

テクスパン
工法

スポーツ
ウォール

その他製品

会社案内

マルチ搬送(横引)工法による据付施工例



高架下のボックスカルバート搬送(横引)据付施工



高架下の大型フリューム搬送(横引)据付施工



狭隘かつ落差工でのボックスカルバート搬送(横引)据付施工



高架下のL型水路ブロック搬送(横引)据付施工



覆工版下でのボックスカルバート搬送(横引)据付施工

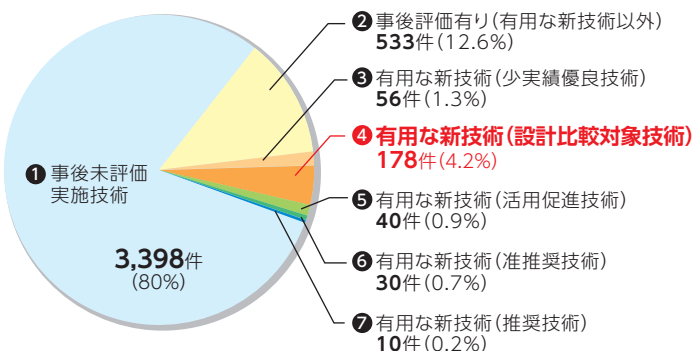
困難な場所でも搬送・据付可能

- 高架下、架空線などの上空制限がある場合
- 仮設土留材(腹起・切梁等)が据付に支障する場合
- クレーンスペースが全線で確保できない場合
- 覆工版の下で交通に支障を与えず据付を行いたい場合
- クレーンの段取り替えにより施工効率が悪い場合
- 据付のための仮設道路が必要な場合

マルチレベル工法・マルチ搬送(横引)工法(NETIS登録番号 TH-020011-V)は、「設計比較対象技術」として評価を得ております。

国土交通省「NETIS」登録新技術の分類

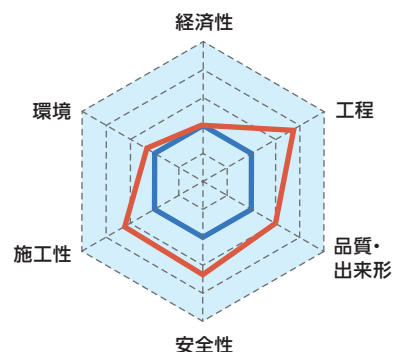
※件数は2012年10月現在



「設計比較対象技術」とは

活用効果評価において、技術の優位性が高く安定性が確認されている技術。設計業務において設計の比較対象となる技術です。

マルチレベル工法の事後評価



— 従来技術(従来工法)
— 新技術(マルチレベル工法)

総評

従来技術に比べて活用の効果が優れている。また、活用の条件の違いに対する評価の安定性を有し、多くの現場で良い評価を得ている。